教材研究ノート№3-A-2

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・数量の関係をテープ図に表すことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2年で1段階の逆思考の問題を学習している。

・2年で，3要素2段階の順思考の問題を学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・2段階の逆思考の問題に出会うのは初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・テープ図で全体と部分の関係を表す学習をしている。

≪学習問題≫

広場にはとが何ばかいました。そのうち5わとんでいきました。また，8わとんでいったので，のこりは17わになりました。　　　　　　　はじめ，はとは何ばいましたか。

≪学習問題≫



主眼

授業計画･実施記録

②見通し：飛んでいったはとの数が分からない。

　　　　　→順に，またはまとめてもどせば計算できる。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：とんでいったはとの数と残ったはとの数を図に表して，はじめのはとの数を求めよう。

5わ

8わ

のこり17わ

③個人追究：数量関係を図に表し，はとの数の求め方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どちらの求め方にも共通していることはなんだろう？」

→「飛んで行ったはとの数をもどして計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「“飛んで行った”のだから，ひき算ではないのか？」

→「飛んで行ったはとの数を引くと，残ったはとの数よりはじめの数の方が少なくなってしまう。」

　「図に表すと，たし算になることがわかりやすい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・飛んで行ったはとの数をもどせば，はじめの数が求められる。

・図と結びつけて考えれば，たし算なのかひき算なのかがはっきりする。

⑥定着･活用問題

ひろし君は，この問題を下の図をかいて考えました。ひろし君の図の間違いを正しく直しましょう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・これまで使ってきたテープ図の幅をなくしたものが線分図である。線分図を用いて数量関係をまとめることは今後も繰り返し行われるので，問題文と対応させて線分図をよみとる活動を丁寧に行い，線分図のよさに気づかせたい。

・小3から文章題が多くなるので，結果の確かめを意識して行い，答えの数量の文中へのあてはめや逆演算の関係に着目させたい。

【板書計画】